

アマダイ通信NO.59

07年梅の花盛りに

知人・友人各位

昨年12月26日、60回目の誕生日で還暦。人生50年時代と違い、日本人男性の平均寿命も80歳。さほど目出度くもない。60年も生きた割には大したことしてないな、世の中の役に余り立てなかったなという気がします。ステージ b「治癒の見込みなし」の大腸癌も、完治といわれる術後5年まで、どうにか、1年ほど。その分、これからの余生で、多少とも世の中の役に立てればと思います。二周目の人生も宜しく願います。

故郷の環境産業都市化！次ステージへ

「正義感溢れ、元気の良い人は皆捕まりドロップアウトして、元気がない人が表に残った世代よね！私達は？」。正月休みに足を運んだ南米はペルー、地上絵で有名なナスカのプールサイドで、仙台から来た同世代のオバちゃん二人。水を得た亀の耳にこそばゆいが、買い被りだ。単純で、向こう見ずでねと付け加える必要がある。正義感だけ、元気だけでは人の役に立てない。持ち前の元気で太陽に向かい飛び続け、終には焼け死んだ「ハチのムサシ」のように。

運良く捕まらず？霞が関で局長をしている旧友の紹介で建築関係の営業に。現場の傍らに穴守稲荷。67年の10・21闘争だったろうか？「70年安保粉碎！ベトナム反戦！佐藤首相訪米実力阻止！」。羽田空港に向かう「ハチのムサシ」の部隊は、運行休止の京浜急行をやむ無く穴守稲荷駅で降りる。目前で阻止線を張る機動隊にゲバ棒振り上げ突入、珍しく突破。逃げる機動隊を追い駆け鈴ヶ森ランプから首都高へ上がる。隊列を乱し、逃げる機動隊。後ろからゲバ棒で殴り、深追い。突然、逃げる機動隊が向きを変え、後方からも機動隊が。気づくと挟み打ち。骨折覚悟で高速道路からダイブ。運良く着地する。

新たな着地点を求め40歳から始めたサラリーマンも、10年しか続かず、営業コンサルタントとして独立して10年近く。自分で自分の時間をコントロールできるようになり、漂泊の想い止まず。年数回海外に出るが、格差が少なく、治安もいい“社会主義日本”の住み易さを感じる。そんな“平等日本”でも、バブルの崩壊とグローバル化による経済危機以降、都市と地方の格差が開く。昼休みに婆やが弁当を届け、手広く商う金持ちの慶応ボーイのお坊ちゃんも、唯一残ったタクシー会社を人手に渡し夜逃げ、東京でタクシーを運転するという。駅前の果物屋のK君も夜逃げ、S君は脳出血でレストランを手放し、お母さんは実家に帰ったとか。能代高校の同期だけでも暗い話に事欠かない。

18歳で故郷を後にしその貧しさに発奮、世の中を変えようと奔走するも、思い叶わず半世紀。故郷に一石をと、友人諸兄の協力も得て、能代山本フォーラム21を結成、講演会を行うなど多少の努力。昨年は、東大三鷹寮の先輩、吉川和廣同和鉱業社長に講演して頂く等、故郷と同和鉱業の仲立ちに努め、昨年末、能代港が国の“リサイクルポート”の指定を受け、大きな可能性が開ける。故郷が木都としての繁栄を失って以来の、環境産業都市として、多少共賑わいを取り戻す、数少ない機会だ。1月末には小阪の同和鉱業で処理する土壌が能代港に初めて荷揚げされ、廃家電や、廃携帯等「都市鉱石」の荷揚げも具体化、同和鉱業の能代港利用から、環境産業都市への道が開けようとしています。

初めて森本君の仕事のお手伝い！

かつての学生運動仲間の森本浩義君がオーナー経営者で、恵比寿に本社を置く中堅デベロッパー、(株)モリモトが、横浜駅前の海岸通りに床面積10万平方メートルの大事務所ビルを建設することになる。森本社長に会い、担当者を紹介して頂くなど、顧問先の高橋カーテンウォールの営業を手伝い、数億円分のコンクリート製外壁パネル（PCカーテンウォール）の受注を、設計・施工を請け負った大成建設から頂く。

マンションは現場で鉄筋を組み、コンクリートを打ち躯体を作るのが普通で、カーテンウォールは使わない。モリモトが東京の城南地区を営業エリアに、マンション開発していた時は、余り手伝う機会はなかった。これからは事務所ビルやショッピングセンターなど、マンション以外も幅広く手掛けるようなので、色々お手伝いさせて頂ければと思う。

他方、●の顧問先も当初の高橋カーテンウォールから館内放送や監視カメラの日本ビクター、照明の東芝ライテック、火災報知機のホーチキ、商社の因幡電機産業などの電設資材、更に鉄骨や鉄筋を扱う鉄鋼商社の阪和興業まで、幅が広がった。事務所ビルや商業施設、ホテルなどだけでなく、マンションの手伝いもできる。

横浜駅前のビルでは電設資材のお手伝いもさせて頂いているが、(株)モリモトの社業の発展と共に、幅広く役に立つことができればと思う。志と被ったヘルメットの色は同じでも、東大・中大と大学も違い、40年の歳月は二人の人生航路を大きく変えてしまったが、その歳月を超えて協働できることに、感慨深いものを感じずにはいられない。

廃プラスチック回収から故郷に環境産業を！

同和鉱業が小坂の精錬所で処理する東南アジアからの廃携帯電話や家電を、この1月から能代港利用含みで、秋田港で荷揚を開始した。携帯電話やパソコンには金やプラチナ等の貴金属、銅などの有価物が大量に使われ、家電にもマイコンが沢山使われている。これらの「廃棄物」は金等の貴金属、銅等の非鉄金属を原鉱石よりも高い純度で含む、優良な鉱石、いわば都市で発生する鉱石、「都市鉱石」である。原鉱石からの複雑な精錬の過程を一部「中間省略」して、金属を回収することができる、優れた「資源」である。資源の少ない日本にとっては、「資源高」のこれから、数少ない優れ物の資源である。

今回はコンテナ利用ということで、秋田港からということになったが、条件が整い次第能代港を利用することになる。更に、能代でもコンテナの積み下ろしまでできないものかと思う。取りあえずこれら「都市鉱石」は能代港から小阪に直行、能代では荷揚げと運送の作業しか発生しないが、関連会社だけでなく地元の運送業者も使いたいとのことなので、多少の雇用が見込める。いずれストックヤードの建設も必要になる。更に能代港での都市鉱石の一次処理＝プラスチックと金属の分離・選別ができないかと思う。小阪には精錬する非鉄金属だけ運ぶようにすれば、同和にとっては運送コストを低減でき、能代には新しい産業が芽生えることになる。

故郷では既に廃プラスチックと東北電力の能代火力発電所の石炭灰からU字構等を作る秋田エコブラッシュや、廃木材などを原料にするバイオマス発電など、環境産業がスタートしている。ただ、地元でのゴミの分別収集が進んでいないので、エコブラッシュも材料の廃プラスチックの多くを県外に頼っている。能代港に運ばれる再生資源のプラスチックを能代で回収し、再利用することで、原料不足も緩和される。

貴重な資源をリサイクルし、有効利用。環境産業を発展させるためには、ゴミ処理を含め市民の環境に対する意識の深化も必要だ。来年、平成20年度から能代でもプラスチックゴミの分別収集が始まる。それに先駆け年明け19日、容器包装リサイクル協会副理事長の、山本和夫東大教授に、ゴミ収集・処理を含め、「容器・包装・リサイクルのこれから」について、能代山本フォーラム21の13回目の講演会で話していただいた。折から行政や市民の関心も高く、70名以上の方にお集まりいただき、盛況でした。

廃プラスチックを大量に集められればエコプラッシュの他にも、建材や輸送用パレットへの再生が可能になる。更に廃プラと能代の木材産業から出るおが屑から、新素材を作ることにも可能である。資源の少ない日本で、廃プラスチックを含め資源を再生し、限りある資源を有効利用することは、石油を含め資源高の今、特に重要であり、全人类的課題である。石油もプラスチックの再生で繰り返し利用し、再生できないものは炉に投入してセメントや鉄の生産に使い、蒸気や電気等のエネルギーとして再生していく、その先頭を我が故郷が走れないものかと思う。

風流の終わりや奥の冬の味

山本和夫東大教授による能代山本フォーラム21の13回目の講演会の二次会は、鮫のフルコースのお店、やま久(0185-54-8611)で開く。鮫は体内の浸透圧を外界の浸透圧より高く保つために、腎臓から尿素を排出せず、血中に多量の尿素を含み、それが死後短時間でアンモニアに分解され、独特の臭を発する。そのため鱧鱈やすり身として利用され、身を直接食べる機会は少ない。だがこの時期、故郷では鮫の刺身を食べる。取れたての鮫を刺身にしたり、味噌焼きしたり、湯がいて酢の物にも。卵はいり卵にする。中々の味である。鮫料理は初体験という山本先生も美味しい！を連発。雪国の海辺ならではの食材だ。❖も自分が生まれた漁村ではいざ知らず、鮫の刺身を能代で食べられるとは思わなかった。グルメを自負する者は鮫料理を食べずにあの世へ行くのは恥だ！今の時期ならまだ間に合います！故郷で鮫のフルコースを食べてみて下さい！

秋田の冬の味覚の双璧と言えれば切りたんぼとハタハタだが、我が家以外で食べた切りたんぼで一番美味しいと思ったのは、能代の宮茂登(0185-52-6141)だ。秋田でも、東京でも色々食べてみたが、出汁といい、たんぼといい、地鶏といい、申し分ない。余り商売熱心とは言えず予約が必要だが、昼も食べられ、ハタハタ鮫もついて来る。もう一つの名物、ハタハタのショッツル鍋で地酒を飲むならべらぼう(0185-54-4066)か？東京では味わえない八森の白瀑もここなら大丈夫。鯨貝焼きやだまこ餅等の鍋も味わえる。塩味が利き過ぎだったが、最近薄味になり、血圧を気にする方も大丈夫。

獲れたての魚を腹一杯食べたい方は、岩館海岸の民宿井川(0185-78-2206)へ。真鱈のチリ、白子、タラコの美味しい季節。鮫鱈も如何？JRのポスターでよく見かける黄金崎も近く。腹ごしらえしてから雪の五能線で波の花を眺め、不老不死温泉に浸かり、日本海の夕陽を眺めるのも乙。振り向けば雪の白神山地の絶景。他にも美味しい冬の味が沢山あります。詳しくは能代市(0185-52-2111)や八峰町(0185-77-2111)の観光課へ！

大腸がんとインプラント

かかりつけの歯医者で予ねてインプラント(人口歯根)を入れることを勧められていた。

しかし、一本 40 万？二本で 80 万円もするという。癌保険で懐に一千万円入ったとはいえ、癌患者として何年生きられるかわからない段階で、コストパフォーマンスを考えると、踏み切れない。死んでも形見分けや相続できる訳でもない。抗癌剤の服用を止め、暫くは生きる目処が立った最近、ようやく手術する気になる。

小さい頃、お袋に歯磨いた？風呂入った？とよく言われた。今更悔やんでも遅いが、子供の頃の歯磨き嫌いが高かついた。周りがハッピーリタイヤする年になったというのに、せっせと稼ぐか？長生きして元を取る？しかない。あごの CT（断層撮影）の結果は歯茎の幅、深さとも申し分なし。歯周病でなく虫歯でなくした歯なので、インプラントは大丈夫という診立て。元の歯が大きく、上下の噛み合わせのため太いのがいいということで、想定より高くなる。2本で95万円ほど。

おまけに耐用年数が十年、人口歯根に被せた人口の歯の耐用年数がそれくらい、歯根も折れる場合があるという。大枚の金をかけるのだから、火葬場まで持っていけると思ったのだが。70歳で再投資できるだろうか？コストパフォーマンスも気になる。70で、インプラントと一緒に死ぬしかないか？お茶の水駅前の杏雲ビル歯科。歯肉が切り裂かれ、ドリルで歯骨に穴が開き、スイス製、純チタンのインプラントが歯茎に埋め込まれていく。

飲むために飲む？

大腸癌は術後4年近く経過したとはいえ、リンパ節三箇所に移っていたので、肝臓や肺に移移の可能性大だ。大丈夫と思いつつ多少不安はある。普通は節制してとなるのだろうが、土日以外毎晩飲み、休日はゴルフかスキーのことも多い。年数回海外にも行く。タフなのか？生き急ぎか？あれしなくちゃ！これしちゃいけない！と、下手に気を使って生きるより、生きたいように生きているのが、ストレスが少なく、いいのかも知れない。

気が小さく、線が細いからか？血管も細く採血はいつも苦労する。三ヶ月に一回血液検査し問診を受けるが、腫瘍マーカーは低いままで、肝数値の若干の over を除き異常はない。三楽病院の主治医の阿川先生との問診も雑談のよう。それでも10分くらいはかかり、診察料は210円！国民健康保険で3割負担だから、0.3で割り700円！3本取る血液検査が2千円だったか？薬とか、検査とか、手術とかしないと病院には金が入らないようだ。

癌が後一年ほどで、大腸癌完治といわれる5年経過となり先が見えると、今度は血圧が気になる。血圧計を買い朝晩計るが、高くて百50~60だった。肩こり直すと血圧が下がることがあるとのアドバイスを受ける。降圧剤を飲まずに済むならと、整骨院でマッサージを3、4回受けるが、効果はみられない。仕方ない、降圧剤を貰おうと三楽病院に行くが、こちらの手帳がいいですねと、新しい血圧手帳を渡され、二ヶ月先の診察日と栄養相談の予約を入れただけで終わるが、最近には時に百70~80、瞬間風速で2百を記録。これでは高血圧の基準を下げたのは製薬業界の陰謀だ！と、決め付けてばかりいる訳に行かない。遂に二度目の診察で、降圧剤を渡される。（酒を）飲むために（薬を）飲む？ことに。

初歩的なカルシウム拮抗剤で、直ぐ下がる訳ではないとのこと。12月の三鷹クラブの講演会で、寮同室で一年先輩の杏林大心臓外科の須藤健一教授が、コレステロールと血圧の相関で動脈瘤破裂や脳出血が起こるが、動脈瘤が破裂する6センチ大までなるのに数年かかるという。コレステロール値は問題ない。他臓器への癌の転移を視るため定期的に上半身の画像診断をし、動脈瘤の兆候もない。幸い、今直ぐ命に関わることはなさそうだ。

ペルーへ！ロスの入国審査で冷や汗？

正月休み、初めて南米、ペルーへ。カスタロが活着している内には是非！と、メキシコ・キューバツアーにエントリーしていたのだが、不成立。ペルーにする。ロスアンゼルス乗り継ぎでリマまで、丸一日以上。9.11 後初めてのアメリカ。指紋を採られ、顔写真写され、入国手続きが厳しくなった。書類に「反米闘争に参加したことがありますか？」とか、「逮捕され、又は、裁判で有罪を宣告されたことがありますか？」という趣旨の質問が英語で書いてあり、その通り答えたものか？正直に答えたら、入国できないのでは？逮捕歴や、有罪判決を隠してバレたらかえってまずくない？一瞬考える？

三度目のアメリカ入国だが、これまでは問題なかった。学生運動での有罪判決も二審で執行猶予になり、刑法の規定で、執行猶予期間の経過と共に刑の宣告はなかったことになった。まして起訴もされていない逮捕歴を問題にするのはおかしい！外国で日本の法律論をこねくり回し、申告するリスクを避け、申告しないリスクをとる。ノープロブレムで無事入国審査は通過したが、ヤクザの皆さん等はどうしているのだろうか？

首相官邸とか、防衛庁の庁舎とか、矯正施設等、機密を要する建物の建築の際は逮捕歴や前科等、「前歴」のある業者の出入りは徹底的に排除されるとも聞いた。又、運転免許証の12桁の番号のどこかで前歴がわかるのだとか。しかし、「人は変る、矯正し得る」という前提に立ち、被告人は無罪を推定されるという「推定無罪」の原則を持つ日本の刑事法の下で、その様なことが許されるのか？営業マンとして色々な建築現場に顔を出すのだが、殆ど問題になることはなかった。営業だからか？「更正」したからか？

クスコからマチュピチュへ！

雨上がりの朝、インカの古都クスコは赤道近く、夏というのに寒い。高度三千四百メートルのなせる術か。前日昼のクスコの空港は日差しがきつく、思わず帽子を被ったのに、雲が日差しを遮り、バスで遺跡を巡り高度が上るにつれ、半袖ポロシャツにGジャンの身に寒さが堪えて来た。高山病からか、気分が悪くなる者も。ノースリーブのTシャツにジーンズの長袖シャツ、カバーオールに着替え、朝6時15分発の列車で空中都市マチュピチュまで、四時間の旅。列車は四度のスイッチバックで高度を上げ、盆地の底のクスコを抜け、駆け上がる。寒くなりカシミヤのセーターを被り、ズボン下を持参すべきだったと後悔する間もなく分水嶺を越え、川の流れが変わる。

ゴミだらけの市街を抜けると畑が広がる。黒い茎のトウモロコシが穂を出し、南瓜が黄色い花をつけ、白や紫のじゃが芋の花が咲く。いずれも南米原産。トウモロコシは高度3600米まで栽培され450種ほど、じゃが芋は4200米まで栽培され、1500種ほどあるという。侵略者スペインがヨーロッパに持ち帰ったジャガイモが、ヨーロッパの人々を飢饉からどれだけ救ったか？トウモロコシは直接、豚や牛の口を通して間接に、時に日本酒の増量用の醸造用アルコールやパーボンとして、我々の血肉やエネルギーとなり、疲れも癒す。

列車が高度を下げると寒さも和らぐ。雲がかかる険しい山塊を濁流と共に走る。時に大きな風呂敷で物を運ぶカラフルなインディオの女。5、6箇所の中継駅でもタピストリーや靴を売るインディオ。高度の文明を誇り、人類に多大の貢献をしたインディオも、その富と文明故に、蛮族スパニッシュに滅ぼされ、物売りとして細々と生計を立てる。麓の村から乗合バスに乗る。葛折れの急な山道を木の枝を擦り擦り登る。雲間に都市が現れる。

崩れしままの石垣に、「古城」よ一人、何思う？

マチュピチュは高度2千4百メートルほど。クスコに比べ低く、高山病で倒れた者も息を吹き返す。インカが滅んだ15世紀そのままに？麓から山頂まで組まれているという石垣の上の、段々畑の濡れた緑が美しい。その緑をヤクが食み、石垣の間に赤や黄の花々が寂しげに咲く。何のために作られたのか、後世の人間が解明する手掛りすら残さず、そこにある空中都市。雲が切れると、高所恐怖症のアマダイの足元遥かに、渦巻く濁流。

マチュピチュから逆行程で、夕闇のクスコに帰り、レストランに直行する。干場さん！と声を掛けられる。昨年の正月休み、チュニジア・モロッコツアーで一緒だった藤森・高木親子四人だ。一日早く27日に日本を出発し、イグアスの滝に二日滞在、明日マチュピチュへ行くという。先日も総勢21名中、添乗員の小野さんを含め17名が集まり、メンバーの坂原さんの表参道のお蕎麦屋さんで3回目の「同窓会」をやったばかりだが、こんな所で会うとは！

フォクロレの演奏が続く。インディオか、混血か？黒の超ミニに黒のTバックのパンチラ娘が軽快なリズムに合わせ、腰を振り振り踊る。これもインディオの踊りか？大晦日、何時になく人通りが多いという中心のアルマス広場。ライトアップされて美しいカテドラル。要所に治安部隊が屯する。マチュピチュの村でも観光ルートを外れ中心街に紛れ込んだら、お腹を裂いた丸焼きの子豚や皮剥ぎされた牛の頭の横で、屈強な治安部隊が銃を持ち待機していた。翌朝早く近所の散歩でもとホテルを出ると、編上げ靴の体格のいい警備員が玄関を固めている。人通りも少なく早々に散策を切り上げる。

エレベーターに閉じ籠められる！

マチュピチュ帰り、いつものように夕食後風呂に入り、酔った勢いで、と言ってもビールの子瓶二本とビスタチオという40度ほどの地酒の甘いカクテル一杯だが、十時には寝込む。高度が高く、気圧が低く、血管も拡張され、アルコールの巡りがいいせいか、直ぐ酔っ払う？空気が薄いので酸素の取込みが足りないためか息苦しく、何度も深呼吸する。頭が痛くなったり、気持悪くて寝込んだり、食欲がなくなったり、お腹が痛くなったりはしないが、寝付きが悪く、夜中何度も目を覚ます。それでも五時前には起きて、治安がよくないというので、好きな散策もできず、本を広げる。

六時に甘いパン一切れと、ソーセージ、プロセスチーズを少し、ベーコン焼きとスクランブルエッグをマンゴージュースで流し込む。インスタントコーヒーの原液？をお湯で割ったコーヒーは不味い。コーヒー産地なのだから、レギュラーコーヒーを出せばいいのだが。メロンとマンゴウ、パイナップル、西瓜にモンキーバナナと果物は豊富。美味しい果物で口直しする。

エレベーターで三階に上ると、入れ違いに同行の女性が一人乗り込む。途端に廊下の電灯が消える。エレベーターも止まる。停電だ！女性が助けを求め叫ぶ！ドアに手を掛け引っ張るが開かない。叫ぶ女性を残しフロントに助けを求め。閉じ込められた女性は泣き出すが、外の●も如何ともしがたい。再び電気がつき、暗闇から救出されるまで20分ほどだったろうか？電力事情も良くないようだ。

チチカカ湖で泳ぐ？

クスコからチチカカ湖畔のプーノまで4百キロの道程をバスで走る。万年雪を頂くアンデスの高峰チンボイヤ山(5487m)、タヌラナ山(5443m)を真近くに眺め、標高4千3百メートル、最高地点のラ・ヤラ峠を通る。夏だというのに、所々薄く雪を被っている。この辺りではトモロコシの栽培は無理で、じゃが芋畑が点在するだけだ。ヤクヤアルパカが、地面を舐めるようにして、短い草を食む。

プーノまで30キロ、シルスタニ墳墓遺跡でチップトイレに入る。入り口で男の子が手を差し出す。2ソル硬貨の持ち合わせがない。5ソル(1ソル35円程)出す。釣りもペーパーも渡されない。持ち合わせないがここまで紙のないトイレはなかった。安心して入ると、ない。おまけに便器はテンコ盛りだ！おえっ！オェッ！気分を落ち着かせるのに時間がかかる。仕方ないテンコ盛りの上に尻を置く。運を手で掴む訳にはいかない！ゴミ箱の使用済みの紙から、きれいなのを探し出し、始末する。金返せ！叫ぼうにも言葉が通じない。折りから雨が降り出す。カッパを慌てて着て、傘をさし、巨大な円筒形の墳墓群が佇む丘に登る。雨に濡れるアルパカの群れ。写すと傍らの老女が手を出し、チップをねだる。

プーノのリゾートホテルは素敵だった。広く、清潔で、洗面もバスタブも大きい。薄暮の朝靄の中を葦舟のバルサがチチカカ湖の湖面を滑るように走る。前面の大窓を開け放つ。水鳥の囀りが遠く、近く聞こえる。遊覧船で、葦を積み重ねた浮島「ウロス島」へ。オスロヤペテルブルグ、紅海、最近ではケニアでも泳いだ。夏の日差しが結構きつい。いよいよ南米大陸でも泳げる！逸る心を抑えて添乗員に聞くと、高地にあるチチカカ湖の水温は夏でも12度だという。諦める。それでも現地の人泳ぐよ、と添乗員の追い討ち。プーノから空路リマへ。更にバスでイカまで、310キロ。翌朝、ナスカへ軽飛行機を飛ばす。地上絵がくっきりと見える。誰が、何時、何のために描いたのか？

イカに戻り、ロッジで休憩する束の間の時間を盗み、プールに身を浮かせる。海岸とアンデス山脈の間には広大な砂漠が広がり、アンデスから流れ出る川沿いのオアシスだけが、人間の住める所だ。そこにトモロコシやじゃが芋、葡萄などの大農場が広がる。砂漠に大きな鶏舎が次々と現れては消える。何も無い砂漠に掘立て小屋。農場や鶏舎で働く人間が住むという。土地の高低差、アマゾンのジャングルから海岸の砂漠までの緑の濃淡、水温まで、そして何よりも、そこに住む人間の生活の落差の、何と大きい国だ！ペルーよ！

D - ネット勉強会・・・「再び台頭するロシアと日本」

グローバル化する経済と台頭する新興諸国との関係で、日本の未来を考える連続講演会。前回は「発展するインド経済」がテーマでした。今回は冷戦体制崩壊後の混迷から脱し、急速に経済再建を進め、資源高を背景に、「エネルギー帝国主義」とでも呼ぶべき様相を強める「プーチンのロシア」の実態と「プーチン以降のロシア」の政治・経済・社会のこれからについて、斯界の権威である下斗米信夫法政大学教授(1967年東京大学入学、法学部卒)に話していただきます。併せて、シベリアの資源や北朝鮮を巡る中露の関係等、北東アジアの問題にも触れていただきます。

場 所：学士会館本館(東京メトロ・都営地下鉄神保町、03-3291-5931)

日 時：3月8日(木) 6時開場、6時半開会 会 費：会員2千円、一般3千円

申込み：Dネット事務局(fax03-5228-1715、mail：w-1942@ph.highway.ne.jp)

又は、☎事務局まで。

第71回三鷹クラブ定例懇談会（大阪開催）のご案内

3月の第71回定例会は、恒例により大阪で開催します。講師は、今里允彦さん（阪神電鉄常勤監査役・昭和39年入寮）です。実は昨年（第65回）にも今里さんに声をかけましたが、村上ファンドの問題が微妙な段階で、結局辞退されました。今回1年越しで実現を見た次第です。

同期で東寮同室の野田貴彦さん（伊藤忠商事）によると、『彼は真面目で人懐っこい性格ではあるが、特定の人物とべったり付き合うという風ではなく、誰とでも仲が良かった。一方、正しいことは正しいと主張し、曲がったことの嫌いな正義漢との印象が強い。手元に残っている写真では、寮祭で仲間と騒いでいる姿があり、酔った勢いで東女にストームをかけたこともある。近くの焼鳥屋「いこい」では、一緒に串を数えながらビールを飲んだことなども記憶に残っている』とし、総じて平凡な寮生活だったと結論づけておられます。しかし、私から見れば、結構寮での共同生活をエンジョイして居られ、私達のように極端には陥らず、バランスのとれた寮生だったのではないかと想像しています。

昭和43年法学部卒業後は、日本開発銀行（現政策投資銀行）に就職し、国外を含め、多くの分野にかかわり、それぞれのポストで手腕を発揮されました。三鷹クラブ結成時、私が同行の設備投資研究所に今里さんを訪ね、最初の名簿を届けたことを覚えておられました。それから間もなく、阪神淡路大震災の直後平成7年7月阪神電鉄に出向されました。阪神では、開銀ニューヨーク駐在事務所の首席駐在員など豊富な海外経験を買われ、リッツカールトンホテル大阪（阪神の社運をかけた大事業である梅田地区再開発の中核となるもの）の立上げに参画されました。引き続き阪神ホテルシステムズ常務取締役として、同ホテルを大阪ナンバーワンの評価を得るまでに育て上げられました。平成12年には阪神電鉄常勤監査役に就任し、今日に至っています。

今里さんは、阪神電鉄に入られてからすでに10年余を経過し、完全に阪神マンとなり、住居も西宮市に落ち着かれました。余談ですが、私は子供の頃からの熱烈なタイガースファンで、昨年12月に今里さんが来訪された際、定例会の打合せよりもタイガース談義に花を咲かせました。定例会では、最近の阪神電鉄の状況とともに、タイガースの将来についても、貴重なお話がうかがえるのではないかと期待しています。（文責 平賀俊行）

記

日時：平成19年3月16日（金） 18時30分～21時
場所：大阪弥生会館（大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話 06-6373-1841）
交通：JR大阪駅中央北口から徒歩5分 JR西日本本社そば
講師：今里允彦 阪神電鉄(株)常勤監査役（昭和39年入寮）
テーマ：「阪神電鉄の中から」
会費：5000円（夕食・飲物付き）
申込先：平賀俊行・干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182
有限会社ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn

三鷹クラブのホームページをご覧ください

S42年入寮、朝日新聞の中村英さんが、デジタル技術を駆使してホームページを新しく開設し、イベントの度に取材、更新してくれています。OBの方は是非ご覧ください。

URL : <http://www.ne.jp/asahi/mitaka/club>

◆事務所では現役寮生と新年会

三鷹寮の学生諸君と事務所で新年会をしました。他のOBの都合がつかず若者13人をおでん、ピザ、寿司などで、今回は一人でもてなしました。我々がやり過ぎたせいで？自治寮からつまらないワンルームマンションになってしまい、「まるでアウシュビッツだ」という留学生もいるとか。繋がりが薄く、多少意気が上がらないように見える学生諸君ですが、日本の将来を託すのは彼等の頭脳と肉体。嘆くより前に彼等に交りの場を提供し、何か伝えるものがあればと、今回も11時くらいまで盛り上がりました。40年前、寒風吹込む汚い寮で、どてらを着て天下国家を論じたことを思い出し、十年後、二十年後の彼等の活躍を夢見る。今回の参加者は

岡本和也(委員長、理 一年、2006年入学、愛知・岡崎)、蜂谷広志(理・化学、2005S、福井/越前・北陸)、三浦瞬(理・化学、S 2005、札幌)、永田達哉(理・数学、理 2004、静岡)、木原朴(理、2006、私立大分東明)、坂東樹(理→農・森林→文→法、2000&2004、岡山・新潟)、齋藤大輔(工・電情→新領域基盤情報、2002、京都・洛南)、佐藤康人(S→教養学部4年→監査法人トーマツ、2003、福岡・小倉)、濱野聖也(理S、2006、島根・浜田)、岩本洋子(理学系研究科・地球惑星/海洋研、2004理大・物理→修士から、広島・広大附)、家永真幸(地域文化、文、2000、東京・武蔵)、小川愛美(文・社会心理、文、2001、島根・松江北)、鍋島冬樹(S、2006、高知・高知)、羽鳥潤(理・地球惑星物理、理一、2003、茨城・土浦)。

今回は院生会からも岩本さんと齋藤さんが参加してくれました。また、◆の知人二人も参加、暖房なしで済むほどの熱気でした。

高見君、三鷹寮追出しコンパで講演

二月八日の三鷹クラブの小宮山東大総長を囲むパーティは、百人程の寮友が集り盛会でした。(三鷹クラブのホームページに掲載)最後に寮歌「新墾」と「藝文」、応援歌「只一つ」を高唱、散会。現役寮生も二人参加。鈴蘭通りの、中国料理「三幸園」での二次会も盛り上がり、十日後の18日(日)に寮の追出しコンパがあるということで、OBも参加しようということに。ただ参加するより、誰か記念講演をしたらいいということになり、その場に居合わせた、国際的な有名人、NPO法人「緑の地球ネットワーク」の高見邦雄事務局長(S41年入寮、36期寮委員長)に白羽の矢が立ちました。

中国、山西省大同市の黄土高原の緑化ボランティアを続けて15年、中国政府からも「国家友誼賞」を貰う等、日中を股に掛けて活躍する高見君の講演こそ、6百寮生中、2百人が留学生の、「東大三鷹国際学生宿舎」へと国際的に装いを変えた三鷹寮に、相応しい。

OBの講演は大分前の寮祭の時の国際政治学者、舩添要一君(S42年入寮、現参議院議員)以来です。その後寮生の自治会活動が下火になり途絶えていましたが、これを機に交流を深めることができればと思います。良き伝統を後輩に伝え、三鷹寮がかつてのように若者が熱く交わり、磨きあう場として輝きを取り戻し、更に国際交流の場として、国際性を獲得できる場として機能する。次代の日本を担う人材を一人でも多く輩出する「自治の学校」に成長することができればと思います。三鷹クラブからは欠食児童?のためにピザを差し入れました。

◆ホームページを新しくしました http://www.geocities.jp/amadai_tfn

緑の地球ネットワーク '07春の黄土高原ワーキングツアー



訪問先 / 中国山西省大同市 (北京経由)

経費 / 一般 17 万円 学生 16 万円 (関空発着の場合)

(航空保険料・燃油特別付加運賃など 1.5 万円程度プラス)

締切 3 月 15 日 (定員 30 人) 詳細は下記にお問い合わせください

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN)

552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24 住宅情報ビル 5F

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182 E-mail gentree@s4.dion.ne.jp

URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

日程: 2007 年 4 月 17 日 (火) ~ 4 月 24 日 (火) 7 泊 8 日

スケジュール案 (訪問先の県は変更になる場合があります)

- | | | |
|--------------|-------------------------|-----------|
| 4 月 17 日 (火) | 午前 10 時 関空出発 (CA162 便) | 集合は 2 時間前 |
| | 北京着後、バスで大同へ。夕方大同着 | 雲崗国際酒店泊 |
| 18 日 (水) | 白登苗畑、カササギの森で見学と作業。天鎮県へ。 | 天鎮県招待所泊 |
| 19 日 (木) | 天鎮県東沙河郷で作業。小学校で交流 | 農家でホームステイ |
| 20 日 (金) | 「古長城」参観。市内へ。 | 雲崗国際酒店泊 |
| 21 日 (土) | 大同県呉城郷「アンズ基地」で見学と作業。 | |
| | 午後、懸空寺見学。 | 雲崗国際酒店泊 |
| 22 日 (日) | 雲崗石窟参観。環境林センターで見学と作業 | |
| | 歓送会。夜行列車で北京へ | 車中泊 |
| 23 日 (月) | 朝、北京着。終日北京観光 (自由行動可) | 北京泊 |
| 24 日 (火) | 帰国 (CA927 便)。13 時関空着 | |

飛行機の時間は航空会社の都合により変更になる場合があります。

費用: 一般 = 17 万円、学生 = 16 万円 (国際航空運賃、中国国内での交通費 / 食費 / 宿泊費、GEN 年会費を含む。空港施設使用料、航空保険料、燃油特別付加運賃、個人行動時の費用、旅券取得費用、個人の旅行保険料は含まない) 中国国際航空利用 関西空港発着 (成田発着便利用の場合は、ご相談ください。)

終わりに・盛り沢山でいつものページ数をオーバーしました。80 円で届くか心配です。再見!